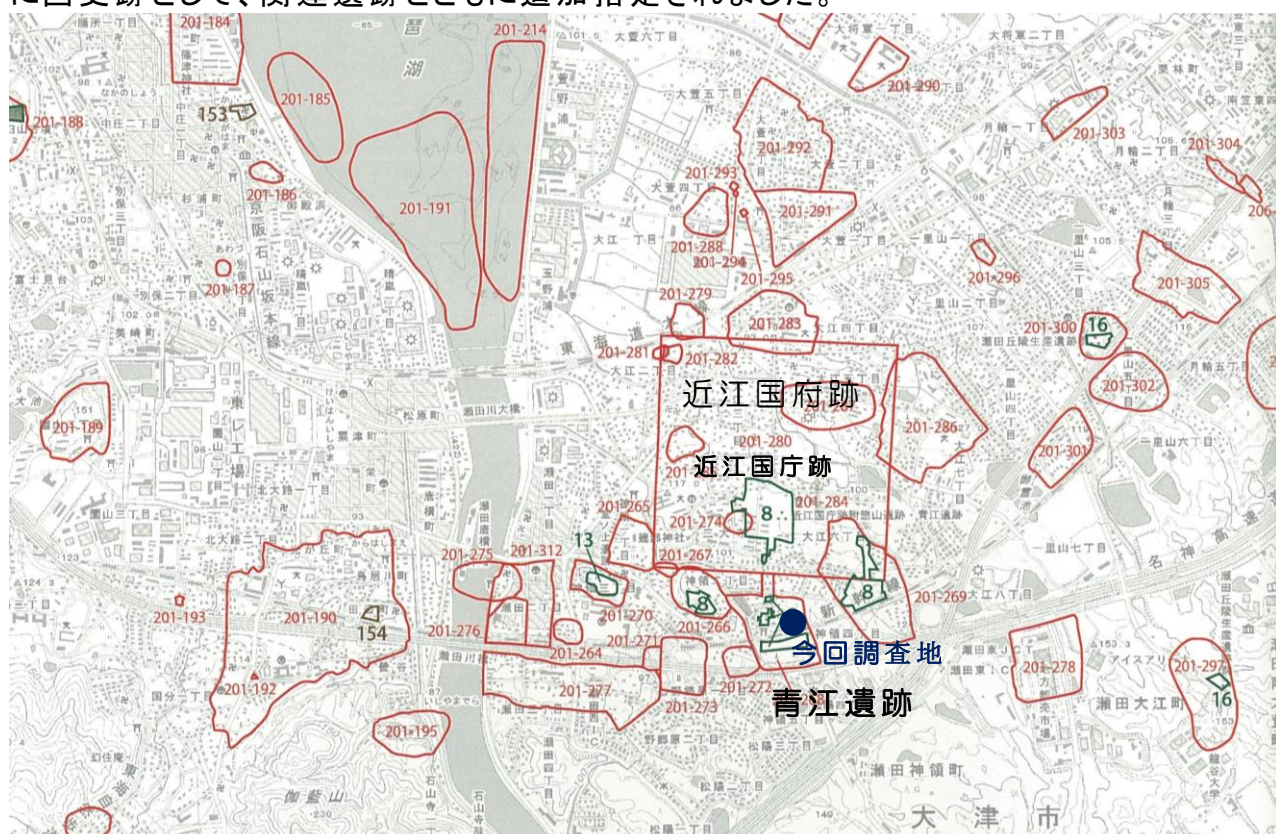




遺跡紹介

あおえ じんりょう 青江遺跡(神領二丁目)

瀬田川東岸には、古代の近江国の政治を司っていた、近江国庁があることが知られています。標高 130m~180mの瀬田丘陵地に、以前から方八町(現在は方九町)の範囲約 109m四方に国府域が広がっていると考えられていました。近年の調査から、国庁に伴う官衙群は国府域ではなく、谷を挟んで南の丘陵上に官道を中心として配されていることがわかってきました。青江遺跡は、国庁と谷を挟んで真南 400mに位置しています。大型掘立柱建物や、築地塀に囲まれた敷地、敷地内に建てられた瓦葺き礎石建物などが検出されました。軒瓦には、国庁と同じ飛雲文があしらわれており、当遺跡から見つかった建物は、8~10 世紀頃の近江国庁関連施設であることがうかがえます。国庁に勤める国司が住まい・日常的な仕事をする国司館と推定され、平成 12 年に国史跡として、関連遺跡とともに追加指定されました。



【遺跡位置図】

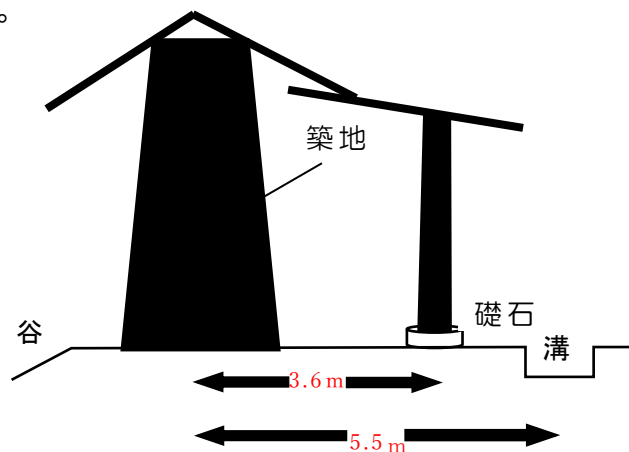
Q: 近江国庁に関連する新しい発見があったのでしょうか。

A: 最近の青江遺跡の調査では、国司館とは性格の異なる様相も見えてきています。

今回、遺跡の東寄りの地点を調査したところ、築地塀・礎石列・溝などに伴って鍛冶炉群が検出されました。過去にも例があります。

Q: 鍛冶炉とはなんですか？そもそも鍛冶って…。製鉄炉ではないのですね。

A: 鍛冶とは、金属を打って鍛え、製品を製造することです。ここでは鉄材から、例えば刀子や農工具などの鉄製品が作られていた可能性があります。その炉跡が検出されました。



【片庇廊復元模式図】

A: 炉跡は地面が高温に熱せられて赤く焼けて固くなっています。また、鉄斧や刀子などの鉄製品、多量の鉄滓（精錬の際に出る不純物）、金床石（熱した鉄などを置いて作業する台）や砥石といった鍛冶関連遺物の出土から推測しました。

Q: 柱を受ける石（礎石）が、南北にきれいに並んでいますね。建物の礎石なの？



【青江遺跡東半調査区（北から）】

A: 断定はできませんが、「片庇廊」^{かたびさしろう}ではないかと。屋根の一方に庇が付くように作った回廊跡ですね。平城宮の外廊^{がいかく}に一部用いられていますが、近江国府では初めての検出です。

Q: 建物跡ではないのですね。鍛冶炉群と、関係はあるのでしょうか。

A: 片庇廊北側で、10 基もの鍛冶炉が検出されています。おそらく片庇の屋根の下で、鍛冶作業に励んでいたものと思われます。廊の北側では、炉の跡があり、南側では焼土痕^{しょうどこん}がみられます。北側で炉を使用して鉄から不純物を除く作業（精錬）を、南側で鉄材の加工や成形などを行っていたのかもしれません。

Q: ほかに、どんな遺物が？

A: 丸・平瓦が多量に見つかったのですが、特に国府関連の遺跡で共通してみられる、飛雲文^{ひうんもん}をあしらった軒丸瓦^{のきまるがわら}・軒平瓦^{のきひらがわら}が出土しました。また、皇朝十二銭^{こうちようじゅうにせん}のひとつである、神功開寶^{じんこうかいほう}が見つかりました。初鑄 765 年であり、当遺跡が機能していた時期は、奈良時代の後半と考えられます。

…奈良時代後半、青江遺跡の東側の区域では鉄精錬の作業をする国府所用^{こうぼう}の工房があったことがわかりました。



【鍛冶炉跡】



【鍛冶関連遺物】



【飛雲文軒丸瓦】

出土品紹介

坂本遺跡(下阪本三丁目)出土の青磁製香炉

近年、下阪本やその周辺地域では、多くの発掘調査が行われ、出土遺構・遺物からも当地区の繁栄を物語る資料が多く見つかってきています。当地域は、比叡山延暦寺・日吉大社の門前町坂本に近く、琵琶湖畔であり、水陸交通の拠点として商業の発展をとげていたことが、中世の文献などで知られています。

令和4年度の調査でも、建物や井戸の跡とともに多くの土器などが検出され、土坑からは、青磁の香炉がほぼ完形に近い状態で見つかりました。中世の日本は、青磁・白磁などの製品は中国から輸入しており、このような品を持てるのは庶民層ではなく、かなり高貴な人々も住まいしていたことがうかがえます。ほかに、茶釜なども出土しており、茶道や香道を嗜む、風雅な生活が当地では日々営まれていたのでしょうか。



【坂本遺跡出土 青磁 三足香炉】

➤ 青磁とは、中国で発達した、青緑色に発色させた磁器です。この香炉は、宋～明時代に盛んであった龍泉窯（浙江省）の製品と考えています。



■開館時間 午前9時～午後5時

■休館日 土・日・祝祭日・

年末年始(12月27日～1月5日)

■入館料 無料(講座等は有料です)

■交通 JR唐崎駅から徒歩20分

京阪電鉄石坂線滋賀里駅から徒歩5分

2023.3.31 発行 大津市埋蔵文化財調査センター

〒520-0006 大津市滋賀里一丁目17-23